

関東都市学会ニュース 2025年2月号

(2024-4号)

発行 関東都市学会

〒236-8501 神奈川県横浜市金沢区六浦東 1-50-1

関東学院大学社会学部小山弘美研究室内

Tel: 045-374-6047

<E-mail> (省略)

<http://www.kanto-toshigakkai.com>

「関東都市学会」郵便振替：00130-9-33044、三菱 UFJ 銀行麹町中央支店普通口座 0201604

関東都市学会研究例会を対面と ZOOM によるオンラインのハイブリッド形式で開催いたします。会員の皆様には、2月27日(木)までにご参加申込をいただき(対面参加とオンライン参加いずれの場合でも)、ふるってご参加くださいますようお願い申し上げます。

全会員宛てに、2月23日(日)までにメールでオンライン参加に必要な ID とパスワードをお送りいたします。学会に登録されているメールが無効である場合はメールが届かない可能性があります。メールが届かなかった場合(学会にメールアドレスを未登録の場合を含む)は、事務局まで、有効なメールアドレスをご連絡ください。また、研究例会に先立って各委員会・理事会を開催いたします。

↓研究例会および委員会・理事会へのご参加申込はこちらからお願いいたします↓



または <https://forms.gle/hKGYxBPxqifxjY7> にアクセス
いずれでもお申込ができない場合は、事務局へ対面とオンラインいずれで参加されるかをメールにてお知らせください。

関東都市学会 研究例会

※対面と ZOOM のハイブリッド形式

開催日時 2025年3月2日(日) 15:00~18:00

開催場所：【対面】成城大学3号館312教室

【オンライン】ZOOM ミーティング

【報告】

「都市の近代化と食文化の変容に関する考察

—「たい焼き」に見る東京の食の象徴的消費と文化的定着—

宮本 匡 (法政大学大学院)

【研究活動委員会 ラウンドテーブル企画「都市をめぐる研究・教育・実践のいま」第5回】

話題提供：「歴史遺産の保護・活用とその限界—都市再開発・墓じまいを事例に—」

石神 裕之 (京都芸術大学)

司会：野村 朋弘 (京都芸術大学)

関東都市学会理事会・各委員会開催のご案内

開催日時 2025年3月2日(日)

※対面(会場は研究例会と同じ)と ZOOM のハイブリッド形式

【編集委員会】 10:00~11:00

【研究活動委員会】 11:00~12:00

【理事会】 12:30~14:30 議題：2025年度関東都市学会春季大会について、他

*理事・委員の先生方へ：理事会および各委員会で配布されたい資料は、事前にそれぞれの
メーリングリストと事務局メールアドレスにお送りいただけますようお願いいたします。

【3月2日開催研究例会の会場について】

会 場 : 成城大学 3号館 312 教室 〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20

アクセス: 小田急小田原線「成城学園前駅」より徒歩4分

アクセスマップ : <https://www.seijo.ac.jp/access/>

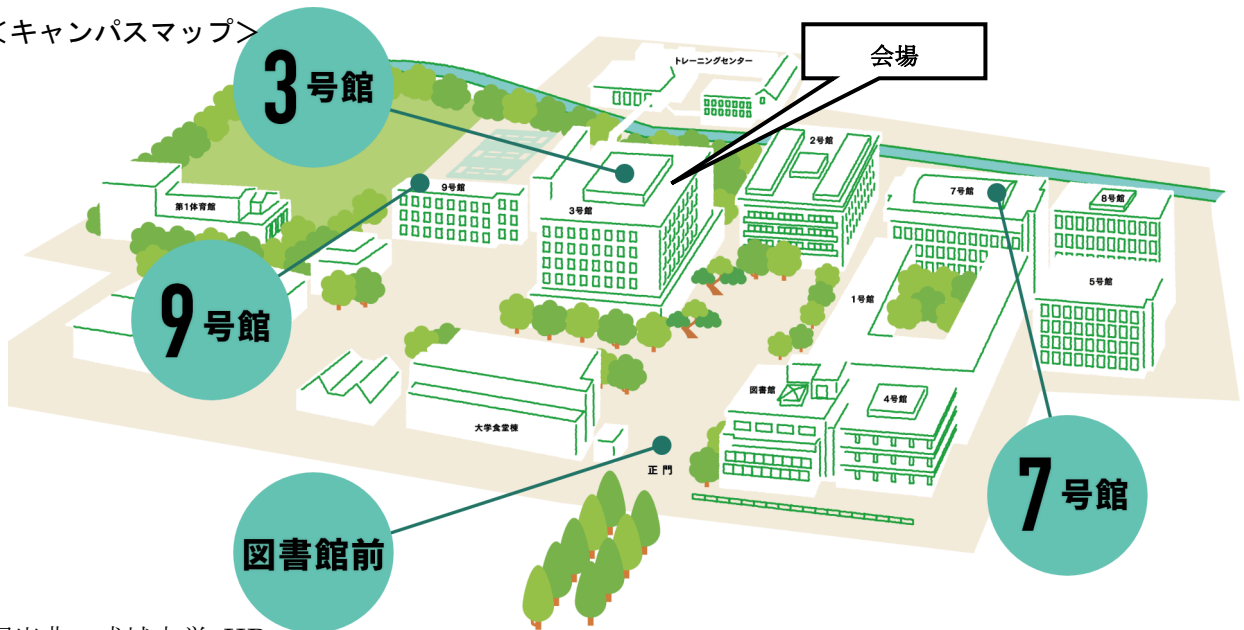
キャンパスマップ : <https://admission.seijo.ac.jp/event/oc/2022/live/map>

備考: 日曜開催のためキャンパス内の食堂等は休業日です。また、大学周辺にはコンビニがありません。特に理事・委員の先生方は昼食をご持参くださいますようお願いいたします。

<会場周辺地図>



<キャンパスマップ>



地図出典 : 成城大学 HP

お知らせ・募集

【2025 年度関東都市学会春季大会の予告】

2025 年度関東都市学会春季大会を、「災害間」における災害復興の方向性を考える：地方都市における「日常」の選択と再編」を仮テーマとして、5 月 24 日（土）に跡見学園女子大学文京キャンパスにて開催いたします。是非スケジュールをお空けいただき、ご参加ください。対面と ZOOM のハイブリッド形式での開催を予定しております。

【2025 年度関東都市学会春季大会の自由報告募集】

5 月 24 日（土）の春季大会における自由報告を募集します。報告を希望する方は、「報告タイトル」「報告内容の概要（300 字前後）」「報告者氏名及び所属・連絡先」を明記の上、2 月 28 日（金）（締切厳守）までに関東都市学会事務局必着にてご応募ください。応募は電子メールによるものとします。当日はハイブリッド形式で開催しますが、報告者は対面にてご参加いただきます。

春季大会で自由報告を行うと、報告内容を関東都市学会年報または日本都市学会年報に論文として投稿することができます。2025 年度の投稿締め切りは、関東都市学会年報の「自由投稿論文」（査読付）が 2025 年 6 月末、日本都市学会年報の「審査論文」が 2025 年 11 月末です。なお、いずれも日程は予定ですので、詳しくは Web サイト・今後の会報等で各自ご確認ください。

また、論文発行時に 39 歳以下の場合、日本都市学会年報または関東都市学会年報に掲載された論文（単著、あるいはファーストオーサーの共著）は、日本都市学会論文賞の選考対象となります。ふるって春季大会自由報告にご応募ください。

【2025 年度日本都市学会賞推薦候補図書募集】

日本都市学会では、毎年大会時に日本都市学会賞（奥井記念賞）を選定しておりますが、その選定にあたり各地方都市学会から候補作品（最大 3 点まで）を推薦することになっております。2025 年度についても例年どおりの手続きで進められます。関東都市学会として 2025 年度の日都市学会賞候補作としてふさわしい推薦図書を選定するにあたり、会員から次の要領で推薦を公募し（自薦・他薦を問いません）、それを踏まえて選考作業を理事会内で行うことにいたします。

（1）候補作品の対象

2023 年 1 月 1 日～2024 年 12 月 31 日（奥付記載日）に刊行された、日本都市学会会員の著作（共著を含む）等

※日本都市学会賞（奥井記念賞）の推薦要件については、日本都市学会ホームページ <http://www.toshigaku.org/>を参照。

（2）推薦書類等提出物

推薦文（400 字程度）及び該当図書 2 冊（審査後必要であれば返却）

* 審議のうえ審査対象になる場合、7 部（献本）が必要になります

（3）締切

2025 年 2 月 27 日（木）必着

（4）提出先

〒236-8501 神奈川県横浜市金沢区六浦東 1-50-1

関東学院大学社会学部小山弘美研究室内 関東都市学会事務局 宛

日本都市学会賞には特別賞（外国語著作賞、学術共同研究賞、まちづくり賞）の部門もあります。このうち、学術共同研究賞、まちづくり賞は、2025 年 2 月 27 日（木）必着にて引き続き推薦を受け付けております。2022 年 1 月 1 日から 2024 年 12 月 31 日の 3 年間に刊行された、日本都市学会会員の著作（共著を含む）等が対象です。こちらについても情報をお持ちの方は事務局までお寄せください（書式自由）。

【関東都市学会年報について】

関東都市学会年報第 26 号の発刊は 2025 年 4 月を予定しております。2025 年 4 月中には会員各位のお手元にお届けできるよう、作業を進めております。いましばらく、お待ち願います。また、2024 年 5 月の総会にて承認されました通り、第 26 号より本年報は、紙媒体での発行・送付はなく電子媒体のみでの発行・公開（会員メーリングリスト宛てでの pdf ファイル送付および J-STAGE への掲載）となります。

【2024 年度会費未納の方へのお願い】

2024 年度の関東都市学会会費をまだ納めておられない方は、是非 2025 年 2 月 27 日（木）までにお納めいただくようお願いいたします。

なお、2 年度以上にわたって会費を滞納された方は、関東都市学会から日本都市学会本部に向けて提出する「年度ごとの会員申告名簿」から自動的に削除され、日本都市学会年報及び日本都市学会ニュース等が届かなくなるといった支障が生じます。原則 4 年度以上にわたって会費を滞納された方に対しては、除籍の措置をとらせていただいております。また、関東都市学会では、当該年度会費の納入を年報配布の条件としております。このような点もご考慮いただき、過年度分会費の納入にご協力くださいますようお願いいたします。

会費支払と会員資格（関東都市学会及び日本都市学会）に関してのお問合せは、関東都市学会事務局まで文書あるいは E-mail でお願いいたします。

【『関東都市学会年報』バックナンバーを無償で配布します（会員限定）】

学術誌のオンラインデータベース「J-STAGE」へ、『関東都市学会年報』第 19 号～第 23 号に収録された論文・記事の電子版（pdf ファイル）が新たに掲載され、どなたでもダウンロード可能となりました。それに伴い、『関東都市学会年報』の一部のバックナンバー（第 19 号～第 23 号）を、希望される会員に無償で配布させていただくことになりました。配布を希望される方は、下記のとおり必要事項をお書きのうえ事務局へメールにてお申込みください。

申込先：関東都市学会事務局

必要事項：希望する号数、送付先（宛名、住所、電話番号）

受付期間：2025 年 3 月 31 日（月）まで

備考：着払いでお送りしますので、送料は申込者においてご負担ください。また、配布冊数の上限に達した号はお送りできません。その場合は、お申込みいただいた時点でお伝え致します。

なお、お申込みいただける冊数は原則 1 冊です。どうしても複数部必要な場合はその旨と理由もお書きください。

2024 年度第 3 回理事会報告

2025 年 1 月 13 日に Zoom によりオンライン開催された 2024 年度第 3 回理事会の主な議事内容は次の通りです。

1. 3 月研究例会について

- ・ 2025 年 3 月 2 日（日）に対面と Zoom のハイブリッド方式で開催することを確認した。また、ラウンドテーブル企画での話題提供を石神理事、司会を野村会員に依頼することが研究活動委員会から提案され、了承された。

2. 2025 年度の大会および研究例会について

- ・ 2025 年度春季大会のテーマ、当日のスケジュール案およびシンポジウムの登壇者候補について検討し、了承された。
- ・ 2025 年度秋季大会は甲府市での開催を検討していく方向性が示された。
- ・ 9 月および 3 月例会を例年通り開催することを確認した。

3. 研究活動委員会から
 - ・ 今後の研究例会および大会について、上記の通り検討および確認された。また、今後の研究企画について国立歴史民俗博物館とのコラボなども検討していく案も示された。
4. 編集委員会から
 - ・ 年報 26 号の編集の進捗状況と、2025 年 4 月に刊行を目指して編集作業が進められていることが報告され、了承された。
 - ・ 今後の年報のオンライン発行に向けて、執筆要項の一部改訂（カラー化への対応）、会員への配布方法、学会ホームページでの公開方法、寄贈先としてきた機関に関して検討や対応が行われていることが報告され、了承された。
5. 日本都市学会理事会から
 - ・ 日本都市学会の石巻大会が無事に開催されたことが報告された。
6. 日本都市学会賞推薦図書について
 - ・ 日本都市学会特別賞（外国語著作賞）について、事務局から示された外形チェック（案）をもとに検討した。また、より詳細なチェック方法については、実際に推薦があってから理事会で検討することが確認された。
7. 次期理事改選について
 - ・ 前回同様、投票用紙の配布・回収は郵送にて行うこととし、事務局と選挙管理委員長、春季大会の開催校担当である土居理事とで詳細を今後検討することが確認された。
 - ・ 今回の選挙管理委員長を西野理事とすることが提案され、了承された。
8. 事務局から
 - ・ 2025 年度の各種学会賞について応募状況が報告された。2025 年度日本都市学会賞・学術共同研究賞・まちづくり賞については、引き続き募集を行うことが確認された。論文賞候補については、今回は該当論文がないことが確認された。
 - ・ 今回は会員の異動がなかったことが報告された。

関東都市学会 2024 年度秋季大会（2024.12.14）の記録

関東都市学会 2024 年度秋季大会印象記

安藤克美（山梨県庁）

2024 年 12 月 14 日、水戸市において、秋季大会が開催された。今回は、「都市の成熟とプロスポーツ文化：地方都市の変遷と移動する人々の生活」を大会テーマとして、水戸市役所の須藤文彦氏、水戸ホーリーホックの瀬田元吾氏から報告をいただき、その後、4 グループでのディスカッション・発表の後、市内でのエクスカージョンが行われた。

須藤氏の発表の中で、水戸市は、全国で最初の都市計画が行われた都市であること、土地区画整理事業ではなく街路事業、拠点開発が中心であったこと、近年、主要な施設が郊外に移転したが、まちなかへ戻っている状況が示された。また、本大会の会場である水戸市民会館のリニューアルに携わった氏から、そのコンセプトとして、「来館者の笑顔がまちの印象を変える」を中心に据えていると説明があった。

続いて瀬田氏から、J リーグ及び水戸ホーリーホックとドイツのブンデスリーガの対比で話が進められた。ドイツのブンデスリーガ 1 部は、スタジアム稼働率、観客動員数とも J リーグと比較にならないほど大きい。また、まちの規模に比例してサッカーチームがあるわけではなく、中小都市もホームタウンになっている。その地域のアイデンティティ／シビックプライドがサッカークラブである。水戸ホーリーホックは、2000 年に J2 に昇格し、茨城県の県央・県北の 15 市町村がホームタウンとなっており、住民の方々にアイデンティティ／シビックプライドを持ってもらうことを目指している。

水戸ホーリーホックの選手、フロント、スタッフも契約延長の確約はなく、サッカーに従事する人間はその地域に住み続けることが容易でないため、在籍中にいかに地域を大切に思い、第2の故郷と思ってもらえるか。そこで、相思相愛型ホームタウン活動や、おらが街のJリーガー+ドラフト会議を行っている。選手がホームタウンを好きになることが、セカンドキャリアとして帰ってくることにもつながる。相思相愛の取り組みが選手と地域を幸せにすることを信じており、「新しい原風景をこの街に」を最上位概念に、クラブ側が仕掛けて根付かせていく。

エクスカージョンでは、水戸市民会館の視察の後、旧弘道館敷及び水戸城の案内や、弘道館と偕楽園を一対の施設として開設した徳川斉昭公について説明があった。当時の弘道館の広さや、水戸城が中世の防災拠点、近世の政治の中心という特徴を併せ持つことが認識できた。

今回の大会の開催地である水戸市と、筆者の住む山梨県の県庁所在地である甲府市とは、人口規模やJ2チームのホームタウンという共通点があり、ある程度のベースを持って話を聞くことができた。水戸市には徳川の家訓など近世が色濃く受け継がれていること、J2クラブ側からより積極的に自治体に働きかけている印象を受けた。